

111

主事

廿六年六月 日

主務

中野馬

三浦

發付

六月五日

立案者

前田

大臣

次官

軍務局長

經理局長

人事課長

第一課長

第二課長

第三課長

第一課長

第二課長

第三課長

訓令案

英國阿姆斯特朗社、元會社、任文ノ軍艦若野及  
水雷砲艦ノ條約履行ニ關シテ、從來其官ニ於テ取扱未  
カ事勢ハ造知造兵監官海軍少佐遠藤英吉ヨリテ  
取扱ハレハキニ係總テ同官、引渡ス(一)

官房第六二二号

頁

頁

0881.

海軍

但同官其他、到着する迄、従前、通事務取扱つて

明治廿六年六月十三日 海軍大臣

在英

海軍大臣河野廣一宛

官房第六三二号二

英國アムストロング、ミツケ兵備社、巨父、軍艦若節及  
水雷砲艇、條約履行、因、従来在英海軍大臣河原  
要一、於テ取扱来、事務、彼地、到着、上總、同官  
より、引継、具官、於テ取扱つて

明治廿六年六月十三日 海軍大臣

造船部長官海軍大臣河野廣一宛

0882

軍令部長(中軍田)

第一局(田)

副官

軍務局長代(田)

第三課長(田)

第二課長代(田)

經理局長(田)

第一課(田)

電信課

青野海上飛艇試験公試運轉終了ノ其結果下ノ如ク

強壓通風 二十ニ海里〇三

通常通風 二十一海里六

総テノ成績ノ良好

明治二十六年七月十八日二ノ一カラスルヲ

河原田軍令部長

伊藤軍務局長代

供覽

決意(田)

供覽(田)

田

田

田

0883

参考

世海船者動船之速力係之條件捕案

自他通風 気壓三分ノ時ノ月(平均速力三十海里ノ上ル)シ

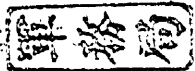
若シ十九海里中下ルキハ本船ノ受取ヲ拒クコトナリ

又海軍通風試験ハ本船ノ最大速力ヲ認定ス迄ニ施行スルニ速力ノ制

限リ付ク

速力増減ノ因シ半支全四割全ノ契約ナシ

0884



Imperial Government Telegraphs.

D

Delivery Form

Words 17  
nil

9.53 am

VE

Station \_\_\_\_\_ Date \_\_\_\_\_ 18\_\_

Given in at Newcastle type date 18 - 7 1893. 8<sup>II</sup> 10 M. pm

To Kaigunsho Tokio -

Inspector illim gypsum macto neptunus  
23.03 infidelis inferior 21.6 perveho  
perfrico Kawarax

0885

漢書

供覽

乙辰



軍務局長

涉不四百九十五号

事控至其公法運轉手續報告

一右生降國軍中藥

右山本物屋西久安士籍先送會紀也

响指方第七月廿九日

海軍大臣

甲森軍務局長

軍令部長 甲午田



軍第五七九號



0886

往第四百九十五号ノ河原方係進達 軍力五七九号

軍艦吉野号試運轉成績報告

附屬圖面四枚

製圖室 抄納 杉溝 啓

附圖四枚係

和監督官海軍大校士 松尾鶴太郎  
和監督官海軍大校士 山本良三郎

0887

0888

一 夫リナレタル軍艦吉野号ハ本月十  
二 試運轉リ執行セリ但シ十八日ノ運  
三 轉ノ當日ノ天気急リシ為メ延期  
ト協議ノ末取極メタル運轉ノ順序左

ニ任セ主トシテ機関ヲ運轉シ以テ機  
障ヲ生セス且ツ當日陰時ナル為メ更  
試運轉ノ一部分トナスコト而シテ此  
間、四回検査ニシテ内共同ハ漸流

往第百九十九号、何号方係(進達) 軍力办七九号、附圖四枚係

# 軍報吉野号試運轉成績報告

明治廿九年七月廿四日

進報監督官海軍大校士 柏尾鶴太郎  
進報監督官海軍大校士 山本良三郎

軍務局長海軍中將伊藤高吉殿

○豫試及び公試運轉 近來著シキ工事ノ進歩ヲナレタル軍報吉野号ハ本月十一日及び十八日ノ兩日ヲ以テ其豫試及び公試運轉ヲ執行セリ但シ十八日ノ運轉ハ素ト十三日ヲ以テ執行スベキ筈ナリシ運轉ノ當日ノ天気悪リシ為メ延期トナリタルモノナリ安政造船部長ワット氏ト協議ノ末取極メタル運轉ノ順序左ノ如シ

七月十一日、當日ハ機械製造人ノ意向ニ任セ主トシテ機内ヲ運轉シ以テ豫試運轉ヲ行フコト但シ此運轉ニシテ故障ヲ生セス且ツ當日餘時ナル片ハ更ニ進テ強壓通風試驗ヲ行ヒ以テ是ヲ公試運轉ノ一部分トナスコト而シテ此場合ニ於テハ英國海軍制定ノ一海里機内ヲ四回疾走セシメ内ニ四回ハ潮流ノ他ノ二回ハ潮流ノ順流ヲ順ハレタルコト

0887  
0888



七月十八日、南日ハ公試運動ヲシテ有熟速取ル時間疾走試験ヲ行ヒ且ツ其  
 時間内ニ於テ條約書ニ基ヅキ十海里四分ノ五ノ權程間ニ於テ四回疾走シ内  
 二回ハ北東ニ向ヒ他ノ二回ハ南方ニ向フコト相シテ十一日ノ運動ニシテ續  
 聖連石試験ノ執行ヲ斷ヤバリシ場合ハ本日ノ六時廿分疾走後ニ於テ之ヲ行  
 フベキコト  
 船体構造ノ強弱ヲ試ムベキ發砲試験ハ速度試験後ノ後ニ行フベキコト  
 又々船体ノ堅固性ヲ測定スルベキ内道試験ハ便宜ニ依リ第一日先ノハ第一  
 日目ニ於テスルモ是又々ベキコト

○十一日ノ試運動、午前十時東京本報ハエムダラクテ發シカインノ紳ニ出ヅ夫  
 署リテ傲揚ナル凡マリ午後ニ至リ小酌アリ酒ヲ九ツ十四時ノ處ニ檢査測定ニ  
 海軍權程間ニ於テ運動ヲ試ムカシテ此運動ニハ馬力約四馬力ノ目的ヲ以テ  
 漸進的試験ヲ行ヘリ即チ檢査ニハ權程間ノ回轉數八十五ヲ以テレ噴火時ニテ  
 五十ノ回轉數ニ及ブ疾走ノ數前後檢査セテ八回計八回ハ試シモ有熟速取ル  
 七時九分ノエテ其時續行ノ速ク

疾走回数	潮流	距離(米)	標準時間(分)	標準(分)	標準(分)
第一回	道	八三	馬二	一一・九二	一一・〇〇
第二回	噴	七五	馬三	一一・九二	
第三回	道	一〇九	馬四	一九・七二	一九・五六
第四回	噴	一〇九	馬五	一九・九八	
第五回	道	一一二	馬〇	一九・九〇	一九・三二
第六回	噴	一一六	馬一	二〇・二二	
第七回	道	一一〇	馬二	二〇・二二	
第八回	噴	一一〇	馬三	二〇・九八	二〇・八一

第二回ノ成績。ハ頗ラ有儀ノ新舊回轉數ヲ考慮。動スル七十一。減セ  
 レリ以テ第一回。動高スバヤ速度ヲ得ル軌ハ不依テ第一回ト第五回トノ  
 速度ノ平均ヲ微リ。十三海里ト見做セリ蓋シ大是ナカラシ  
 以上八回ノ豫試運動中機械ハ勿論故障モ見。故障ヲまぶスコト無クシテ以テ  
 午後四時ヨリ更。進テ殘存速力試験ヲ行フコト。ナセリ

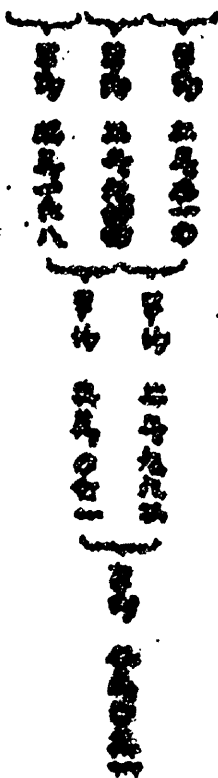
0890

踏壁連瓦試験ハ公試運轉ノ一部分トナルベキモノ。シテ其疾走ハ一海里程程  
 間。於テ前後四回有塵ハ僅。一時踏ミシテ豫テ計劃シタル通りノ蒸發減力ヲ  
 得ルコトヲ得タリ左。踏壁連瓦試験ノ成績ヲ示ス

踏壁回数	潮流	踏壁回数 <small>（右側踏壁回数 左側踏壁回数）</small>	踏壁連瓦間 <small>（分）</small>	速度（ノット）
第九回	逆	一九五	二・五九	二・五九
第十回	順	一九五	二・五四	二・五九
第十一回	逆	一九四	二・五九	二・五七
第十二回	順	一九四	二・五九	二・五七
第十三回	順	一九四	二・五九	二・五七

踏壁連瓦試験ノ疾走ヨリ得タル速度ノ平均ノ平均ヲ得ルコトヲ示シ

第九回 二・五九  
 第十回 二・五九  
 第十一回 二・五七  
 第十二回 二・五七  
 第十三回 二・五七



即今強壓通風試験ノ平均速度ハ二十五海里。〇三一。シラ今日存在スル最速  
速ナル巡洋艦ノ速度。超邁スルコト九ツ半海里

右。記載シタル自然通風及び強壓通風試験ノ成績トテ以テ画キタル馬力曲線  
及び回転数曲線ハ第一圖。示スガ如シ又本日の強壓通風試験申ニ得タル左

右曲線機械ノインゲンケートル。ダイヤグラムハ第二圖。示スガ如シ  
試運転ヲ單ハタル後タインノ河口ニ於テ操縦及ヒ揚揚試験ヲ行フウインドラス。  
クレイン。カブスタン等。既シモ故障シ本艦ハ本日ジャロー。警留ス

○十八日ノ試運転 本艦ハ十一月一日ノ運轉以來数ラガル右舷トフ。ド。ケ。タ  
トヲ消費セルヲ以テ本日ハ先ヅ是ヲ補ハシガ為メ四十九噸ノ海水ヲ持。二重  
底内ニ導キ以テ吃水ノ均一ヲ保フコト。ナメリ本日ノ運轉ハ既シモ自然通風  
ヲ以テスルモノニシテ條約ニ依レバ其全速力ヲ得ル。ハ一時ノ負壓ヲ用ユル  
トテ得ル。此汽機ハ其蒸發力優著。シテ更。負壓ヲ用ユルノ必要アルヲ見ズ依  
ツテ本日ハ負壓ヲ用ヒズシテ試験ヲ執行セリ  
午前九時世分六時間後走試験ヲ初メ午後五時三十分之ヲ畢ニ布シテ右舷走試  
験申第四圖。示シタルタイン。ウ。ス。市。ト。ホ。ウ。ガ。レ。市。ト。ノ。額。ノ。積。海。里。四。分。ノ

三ノ距離・於テ四回ノ疾走リヤレ速度ヲ測定ス。機械回転ノ数各回四十回ニ成績  
左ノ如シ

疾走回数	潮境	左右内線機械 回転数ノ平均	標榜經過時間	速度(ノ下)
第一回	噴		二八.五九	二〇.七五
第二回	道		三一.〇	二〇.七六
第三回	噴		二八.五三	二〇.五九
第四回	道		三一.二〇	二〇.五七

右四回ノ自然速度試驗ヨリ得タル平均速度ノ平均値ノ通り

第一回	二五.二五	平均 二一.五八
第二回	二〇.七六	平均 二一.九八
第三回	二〇.五九	平均 二一.六五
第四回	二〇.五七	平均 二一.六二



リ四百五十八噸ナリトス

船体積割ノ鐵運時期日迄。加工差々ハ搭載シタル重量ハ五十五百四十六噸半  
ニ登トリ但シ其艘ハ南緯ノ吃水ナリ探知スルヲ俾タリ又加工重量表目  
計ヤ尚時。且ル迄。加工差々ハ搭載シタル重量ヲ計算モテ其艘ノ且南ナル  
ヲ積ムル事ヲ俾タリ右重量ノ小分ナク取スコト想ノ邊リ

五二六五五

船体積割積算ノ純重量

一六五〇

十二切ノ水櫃内ニヤル水但シ一切。付々十五噸四

分ノ五屯

二〇〇

積水櫃内ノ水

然ル。船体積割ノ各標ノ下ニ五ツバキモノニシテ未ダ加工差々ハ搭載ヲ算入  
ザルモノ、重量十八噸半ナリ但シ此重量ハ計算ヨリ出タルモノニシテ實際ノ  
重量ハ多大ノ増減ヲ来スコトアルべし右十八噸半ノ重量ハ左ノ細目ヨリ出  
ルモノナリ

三〇〇

船板及ビ鋼棒ノ積

二〇〇

積算重量積

六〇〇

本五重量

五、

日産機帆

四、五

機帆附島島

右細目中ノ鋼板及ビ鋼棒ハ今日ニ於テハ別ニ如何ナル用途ニ之ヲ用出ベキヤ  
 確タル見込ナケレバ本館ノ受取期日迄ニハ意外ノ工事ナキヲ係ス可ラガレ  
 以テ是レガ為メ一噸ノ重量ヲ用意スルトナセリ機帆工事ハ試運務ノ頃ニ於  
 テ既ニ五ナル噸ノ敷附ケラ蒙ヘタル花巻米ワライ、アイ、ボイ、エナ、其他ノ小倉  
 貝類ノ敷附ケラ蒙ヘタルモノモ勘ラガリシヲ以テ是レガ為メ二噸ノ重量ヲ用  
 意セリ木工事ハ前号報告ヲ以テ上申シタル通り木工職ノ同量器工アリタル  
 為メ公室、護室倉庫内ニ於ケル棚板、輸出、蓄ノ敷附ケラ蒙ヘタルモノ敷ラガリ  
 シヲ以テ九ツ其重量ヲ概算シテ之レガ為メ六噸ノ重量ヲ積リトナセリ、帆日  
 覆蓋ハ過半出車敷座ニ用便宜ニ依リ之ヲ搭載セザリシガ為メ其重量ヲ幾  
 ヲ置クトナセリ、又々機帆附島島ノ未搭載物ハ其重量四噸半ヲ以テ運出ナレ  
 願ト認メタリ

船体機帆ノ各級ノ下ニ主タズシテ船体ニ搭載スベキ重量ハ條約書ニ記載アル  
 通り且西五十噸ノ石炭ト西五十二噸ノ貨物ト其他ノ倉庫備置水、人員、機帆等  
 ノ重量トシテ百五十噸トノ並項ヨリ成主ツセノニシテ其合計ハ七百五十噸



下リトス然ルニ右三項中ノ一ナル拓器ノ重量ハ實際積算ヲ超過シテ二百七十  
 噸トナリ維島十八噸ノ増加ヲ見ルニ至レリ故ニ船体ニ搭載スベキ重量ハ七百  
 五十二噸ニアラズシテ七百七十噸トナレリ  
 敵ニ船体機関ノ重量ニ加ユルニ右ノ七百七十噸ヲ以テスレバ合計四千五百三十  
 五噸トナリテ十七噸ヲ對スル本船ノ排水量ヨリ減ズルトニ十五噸トナル換  
 言スレバ本船ノ出航重量ハ計劃重量ヨリ二十五噸ヲ減ズルニ至レリ而シテ未  
 搭載物差クハ未加工物ノ重量ニハ相向ナルヨリ寧ロ過多ナル重量ヲ用意シテ  
 ルヲ以テ本船工費皆済ノ後ニハ減火重量ハ二十五噸ヲ超スルモ減ズルコトハ  
 之レトキ見込ミナリ  
 然ルニ本船ノ十七噸ノ吃水ト貯ケル各一時ノ浮沈重量ハ廿六噸九ナリトス故  
 ニ此重量(二十五噸ヲ差ス)ハ吃水ニ〇・八五吋ノ減火ヲ来サシメタリ即チ本  
 船ノノーマルコンテシヨシニ於ケル吃水ハ十六噸十一吋八分ノ一噸トナレリ  
 本船ノ吃水ハ右ニ記載スル通り九ツ八分ノ七吋ノ減火ヲ来セリ然レニ本船ノ  
 航運務ヲ執行スルニハ本官首ハ地減火吃水ヲ以テスルコトヲ望マザリトナリ以  
 テ特ニワット氏ト協議シ依然十七噸ノ吃水ヲ以テ航運務ヲ執行スルトナセリ

○更換重量ノ類及ビ設置。凡テ未揚載若クハ未加工重量ハ試運轉ノ際更換重量ヲ以テ之ヲ補充セザルヲ得ズ而シテ其補充スベキ重量ハ船体及ビ機関部ニ於テ十八噸半兵器ニ於テ廿二噸半又テ二十噸噸ノ重量減去ヲ補フテ十七噸ノ吃水ヲ保ツ為メ全ビク二十三噸ヲ要ス石炭ハ其全額三百五十噸丈ノ実物ヲ搭載シタル高メ更換重量ヲ要スルコトナシ又テ倉庫品人員淡水等ノ重量ノ内實際概内ニ搭載シタルモノハ僅ニ淡水ト試運轉ノ際東以シタル人員二百三十餘名ニ過ギ不慮ニ此等ノ重量ハ便宜上皆無ナルモノト擬定シテ特ニ百五十噸ノ更換重量ヲ算クコトナシ而シテ淡水及ビ人員ノ重量ハ別ニ之ヲ計算シテ其更換重量ノ一部介トナスコト。取捨ノタリ左ノ實物ノ重量ト更換重量トノ数目ヲ掲グ

	総額	実物重量	更換物重量
船体機関	五五六五噸	三三四六.五噸	一八.五噸
石炭	三五〇.	三五〇.	〇.
兵器	二七〇.	一五七.五	一一二.五
倉庫品其他	一五〇.	〇.	一五〇.
特別更換重量	二三.	〇.	二三.
計	四一五八.	三八五四.	三〇四.

即ち更換重量ノ總數ハ茲西四噸ナリトス  
 更換重量ニ對シテハ九テ水ヲ以テ之ニ充ツルコト、ナセリ而シテ其配合ハ第五  
 圖ニホスガ如シ左ニ其小分ナリトス

一七〇.〇噸  
 汽機室下ノ稼働フェードタンク

七〇  
 鐵機室ノ前部ニアルフェードタンク

二五.〇  
 前部海水タンク

三〇.〇  
 後部海水タンク

四五  
 フォックスル上ノ海水タンク

四五  
 フォープロ上ノ海水タンク

四七.〇  
 前部彈藥倉下ノガラストタンク

一〇.〇  
 南日東煙ノ人員

四〇  
 機油四桶

三〇四.〇  
 合計重量

十月三日

軍務局長

發着看仰届

本官儀露国公使館附免セ之吉野回航委員  
トシテ英國出張被仰付七月十八日露国聖彼得  
堡出発全二十四日英國新城府へ到着仕候比段

閣下届仕山也

明治二十六年七月廿五日

在英國新城府

海軍少佐坂元八郎大坂元

次官

田中

田中

軍務局長海軍中將伊藤高吉殿

三須

軍第七六六號

經理局長

第...

...

0900

經理局長

人事課長

第一課

第二課

軍務局長

吉野第六

水艦領収並ニ回航之件ニ付御届

第一課

第二課

第三課

第四課

第五課

第六課

第七課

第八課

第九課

次官

供覧

軍令部長

第一局

水艦領収並ニ回航之件ニ付御届

本艦義ハ既ニ落成之期ニ達シ諸種ノ試験ヲ執行シ其都度詳

細報告仕置候通何レモ好結果ヲ得残ル所ハ水雷突射管ノモ

有之然ルニ保社(注文ノ魚形水雷未タ)竣功ニ至ラセシメ同試験

ヲ執行致第ニ次第ニ候處本艦ノ竣功期日(十月八日)モ最早今日ナ

ク同期限内ノ右試験ヲ執行スルハ到底六ノ數由ニ候元来本艦ヲ領収

スル前ニ悉ク諸種ノ試験ヲ執行シ其完全ラ期ニテ而ニテ後子之ヲ領

収スルハ條約ニ明記スル所ニシテ素ヨリ正當ノ手續ニ有之候得共柳

魚形水雷之義ハ日本海軍省ト保社ト間ニ契約シタルモノニテ保社

モ關係無之故之ヲ以テ本艦ノ竣功期日ヲ遷引セラルハ安社ハ合意ヲ

要スル次第ノ有之然ルニ安社ハ九月三十日ヲ以テ本艦ヲ引渡シ度希望

ナル故水雷突射管ノ試験ニ付キテハ別紙甲乙号ノ通同社承諾ヲ得

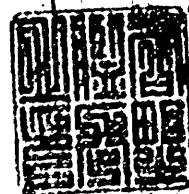
軍第九七〇號

0901

手儿三十日本艦ヲ領収セル上プリムアッス港へ回航し同所ニ於テ水雷ノ技功ヲ  
待テ最初ノ一個出来次第等ポートランドニ於テ本艦ヲ射撃官ヲ試験スルヲ取  
極メ候間此段御届仕候也

明治廿六年九月廿五日

吉野艦長河原要一



軍務局長伊藤篤吉殿

海

軍

0902

甲  
号

P.

Newick Works, Newcastle on Tyne  
20<sup>th</sup> Sept. 1893.

Capt. Kawasa J.G.D.  
Newcastle on Tyne.

Dear Capt. Kawasa.

We are informed by Mr. Matsui that you are now prepared to take over the "Yashino" before the torpedo trials have been made on the understanding that we are to send officials to Portland to attend the torpedo trials, and that we undertake to make good any defects when they may then develop themselves. We beg hereby to give you this undertaking and to assure you that it will be our endeavour to hand this gear over to you in a thoroughly complete condition, and to your entire satisfaction.

Yours, Dear Sir.

Yours faithfully

Noble (Signed)

0903

2  
3

Elswick Works, Newcastle on Tyne  
23<sup>rd</sup> Sept. 1893.

Capt. Kawara J.G.M.  
tc. tc. tc.  
Newcastle on Tyne.

Dear Sir.

A request has been made to us to guarantee that we will be responsible for any damage done to the Torpedoes by the launching gear when the Torpedoes are fired. As it is almost impossible for any damage to be so caused we are quite willing to accept this responsibility, but as we are in no way responsible for the Torpedoes themselves, we cannot guarantee any damage that may be otherwise caused.

We are, Dear Sir.

Yours faithfully

Noble (Signed)

0904



Delivery Form



IMPERIAL GOVERNMENT TELEGRAPHS

Station *Arizako* Date *1-10-93*

Office No. *軍令部長*

Class *SP* Time received *SP 11:00*

No. *87* 軍務局長

Words *8*

Given in at *Yotshibiki* Date *30-9-93 11:45 am*

Address

*Itō*  
*Nagayamacho Tokio*

*Inspector Quinn*  
*Blum's interdic.*

九月二十日

吉野

没取消印類掲揚ス

往時

長官

*Kawarara*

九月三十日吉野受用済(国旗掲揚)

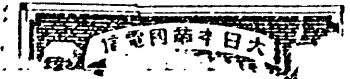
廿六年九月三十日吉野電

何事否

伊藤軍務局長

人事部長

六六



供覽

次官

閱覽濟



軍務局長



吉野第六 五號 三



本艦領収之義御届

本艦領収手續之義過服詳細報告仕置美處右  
準備全ク相整美ニ付本日領収致シ其儀式等別紙  
之通執行致美余此段御届仕美也

明治廿六年十月一日

吉野艦長河原要一



軍務局長伊藤馬吉殿

第三課  
第二課  
第一課  
前田



0906

軍第九五號

海

閱覽濟



供覽

軍務局長



第... 宗

庚午七月...

告野第六 五號ノ三

安社ヨリ本艦領収儀式ノ旨ニ付報告

是迄外國ニ於テ製造スル軍艦ヲ領収スルニ一定ノ  
儀式多クニ付テハ本艦ニ於テ領収儀式尤モ執  
行セリ

一當リ總負西服ヲ着用ス

一午前九時四十五分安社長代理造船部長「ワツト山

造船掛「ラック」氏機関掛「サシゲ」氏山本松尾

兩監督官本艦領収立合ノ為来艦

一令五十五分總負各隊點檢ノ位置ニ整列ス

一午前十時、時鐘ト共ニ軍艦旗艦首旗「ハシ

デント」及前後右揃頂ニ軍艦旗ヲ掲揚ス

軍第九五〇號

一五

一五

0907

海軍

一 今時喇ハ手ハ 天皇祀式ヲ吹奏シ衛兵隊

ハ捧鏡ヲ為ス

一 右終ヲ終長、安社より亦終ヲ領収シタル一ツ

總自之達ス

一次ハ多隊解散

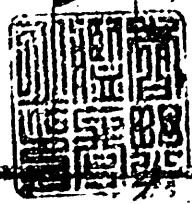
右儀式終リヤ士官以上「ケビ」ニ終リ安社自ト

送金ヲ存カ

右諸ヲ報告仕終リ

明治廿六年十月下

吉野艦長 河原要一



軍務部長 伊藤藤佳四吉殿

0908

追々甲号水雷艇と近々安社より領収ノ事  
可相成トヒ存ル旨一定、領収儀式由之也  
萬方可成ト思考上付、召付服申渡也

海軍

0909

軍令部第一局 (前田)

主事



淨寫

校合



發付



十月五日

年月日

主務

立案者

軍務局長



第一課長



第二課長



第三課長



經理局長



人事課長



第一課長



第二課長



陸軍大臣

次官



傳達案

吉野

右英國、於製造海軍工廠、付本種、面航

右傳達

明治三十六年十月五日

海軍大臣

官房第五九二号

0910

吉野艦長

官  
二  
五  
九  
一  
號  
無  
訓令案

別紙通吉野艦長へ傳達候條此旨得

明治二十六年十月五日 海軍大臣

足利守府司令長官

0914

中興司計部主簿

主事



淨寫

校合

發付

月 日



明治廿七年一月十日

主務

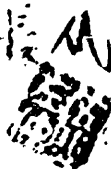
立案者

大臣

次官



軍務局長



才三課長



經理局長



才三課長



軍務局長 淨寫 校合 發付 立案者 大臣 次官 經理局長 才三課長

他國航費中...

第...

...

...

0912



三河川を本年冬に修築せしむるに當り是年回航整頓  
事務付其具より支出を見せ

新

年

0913

電信

唯今著者ノ回航費ノ内ヲ以テ御負金費參る由  
仕拂認可ヲ乞フ

二十七年一月十日おしべ一奉 何保

伊藤中務局長宛

第第九八号

海軍

0914

上事



淨馬

發行



校合

川



廿七年二月 日

主務

卓案者

決裁濟大臣

次官



軍務局長



第三課長



經理命交



第一課長



第三課長



軍艦若野製船造修約に依り製船造人會社より差出之  
詳細圖面(凡二百枚)各一通宛之に之より本管領  
寺付、交付せらるべきに本省に備置少ハキモノ多ク  
依り本省に備付り要ありん方、是の録寺付、於て膠印寫  
尙政其入費、中艦製船造修約に依り支辨及

官房第三〇号

毎

頁

0915

川仰高裁也

此于中又製回費、概美金三百圓、  
回、之、中、製、回、費、概、美、金、三、百、圓、  
の、中、に、又、製、回、費、概、美、金、三、百、圓、  
あり、見、ゆ

0916



0918

IMPERIAL GOVERNMENT TELEGRAPHS

Address

Station *Aioicho* Date *6.10.93*

*970*  
*Kaiyusho TOKIO*

Office No.

Class

Time received

Remarks

No.

Words

Given

in

at

Date

Delivery Form

*Newcastle* Date *5-10-93 3:10 PM*

*Inspector Cupio insonnium*  
*保式魚形水碓 落成*

*languesco improbitas plymouth oscito*  
*待ツテ居ル 為ナニ 7011 272 = 向ケ出船*

*Kawara*



IMPERIAL GOVERNMENT TELEGRAPHS

Address

Station Aichi Date 11-10-1893

Ito  
Kaigunsho Tokio

Office No. 10

Class S

Time received 11:30 AM

Remarks

No. 330

Words 5

VN

Given in at Dumouth

Date

10-10-1893 3:11:37 M. (L.M.)

Arrived. Kawara

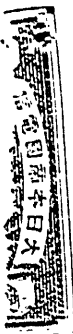
河原

河原

Delivery Form

0919  
CT60

0920



Delivery Form

IMPERIAL GOVERNMENT TELEGRAPHS

Address

Station

*Doicho*

Date

*7. 11 1893*

Office No.

*6*

*Ito Kaiguncho  
Tokio*

Class

*8*

Time received

*8.50am*

Remarks

*v.v.*

No.

*7*

Words

*5*

Given

in

at

*Weymouth*

Date

*6.*

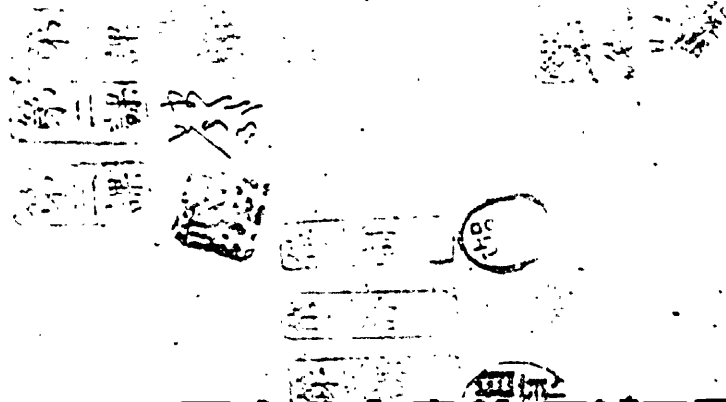
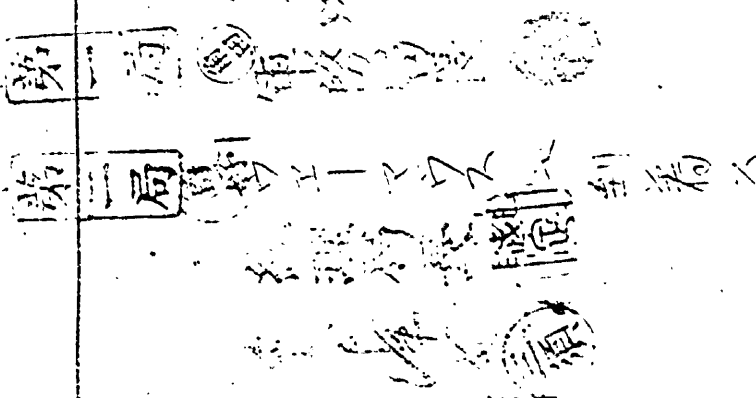
*11 1893*

*7 11.*

*48 M.*

*M.*

*Arrived Kawara*





0921

IMPERIAL GOVERNMENT TELEGRAPHS

Address

Station Aoycho Date 16.2 1894

Kaigunsho  
TOKIO

Office No. 3

Class S

Time received 1.8 pm

Remarks

No. nil

Words 8

Given in at Singapore

Date 16<sup>th</sup> Feb 1894

10<sup>th</sup> a.m.

M.

Delivery Form

二月十八日

香港へ向へ出航

明治廿六年

polenta

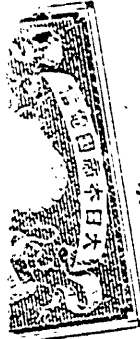
solamen percussor

frondens

maguipendo

Kawara

0922



IMPERIAL GOVERNMENT TELEGRAPHS

Station Aoyama Date 24. 2. 94 18

Office No. 4

Address

Kaigunsho  
Tokio



Class. 1

Time received 5.55 pm

Remarks

No. 311

Words 5

Given in at

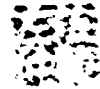
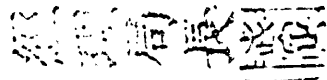
HongKong

Date

24<sup>th</sup> Feb 1894 11. 9 M. P. M.

Delivery Form

Solaris popanum Soled



和光ノ水ニイテクニイテ

ニイテ

ニイテ



軍令部長

第一局

海軍

發行

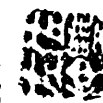
上事



校合



二廿七



廿七年二月 日

主務

立案者

第三課長

第一課長

第二課長

決裁濟

大臣



次官



軍務局長



經理局長



人事課長



第二課長



第一課長



訓令案

軍艦若野其港へ回著ノ上ハ直ニ艦長ヲシテ回航委員長

ヨリ本勝ヲ領收セシムルニ

明治三十七年二月廿七日 海軍大臣

吳所長新司令官長友

官房第四六〇号

海

宣

0923



去の

人妻...  
三須

軍務局長

吉野第一三九號三

第一課  
前

軍艦吉野引渡ノ義ニ付御届

軍艦吉野本日當港ニ到着直ニ本艦ヲ艦長ニ引渡

候條此段御届仕候也

明治廿七年三月六日

軍艦吉野田艇委負長河原要一

供覽

次官

軍令部長

軍務局長伊藤雋吉殿

經理局長

第一局

軍第五一號

海軍

0925



決裁済

大臣

次官



年月日

主務



立案者

主事



淨寫

校合



發付

三月七日



軍艦出着ノ件

英國ノ於テ  
三月二十六日英國後編比六日長港、出着ノ事  
此旨及報告也

明治三十七年三月七日

海軍大臣

官房第五四三号

内閣総務大臣

海

軍

省

0927

第一局

第一局

吉野艦長一覽

關覽濟 供覽

第一局

第一局



第一課

第一課

第一課

謹啟陳之今因帝國新艦吉野英國ヨリ回航  
 途次吳軍港ヲ徑テ当神戸港ハ寄港セ  
 巡神戸市民、於テハ深ク感スル所アリ盛ニ  
 歡迎致申夫斯ク神戸市民カ吾國海軍  
 ノ益必要ナルヲ感シタルト同時、軍人ノ教  
 愛スルノ念ヲ喚起シタルハ實、勲少ナラスト  
 信々殊々碇泊中艦長ノ一舉一動悉ク  
 市民ノ満足スルトコトナリ即チ今回ノ吉  
 野ノ関スル市民ノ感情或ハ歡迎ノ模様  
 等ハ神戸、大坂間ノ新聞紙上ニモ詳述  
 之責贖止マサル次第ニ有リ之依テ該新  
 聞數葉ヲ束ニ供高覽候御參考トモ

第一局



相成り了幸甚ノ玉ニ奉存候為一級具

廿七年之月廿一日

兵庫縣廳

兵庫掛屬大河半武二

海軍省

官房主事山本大佐殿

閣下

0929